

特集1 9月1日は防災の日 できることから始める防災

防災課 ☎(25) 8133



公助
人力での救助が難しい場所での救助や公的支援によって早期復旧や復興につなげる役割

共助
自らの安全が確保できた場合、近隣や集落内などで避難への協力、救助、消火活動をする役割

自助
日ごろから自身でいざという時に自分や家族の命や財産を守れるようにする役割

○災害に備えて
防災・減災は、自助・共助・公助の連携が大切とされています。1995年に発生した阪神淡路大震災では救助された97.5%は自力での脱出や近隣での助け合いで救助されており、特に発災直後は自助・共助が大切となります。

9月1日は「防災の日」です。地震や台風などの災害について理解を深め、被害を防ぎ、少なくするためにどうすればよいかを考え、災害に備える日とされています。
全国各地で地震が頻発しており、特に南海トラフ巨大地震については40年以内の発生確率が90%程度と公表されました。本市においても、琵琶湖西岸断層帯などの活断層があり、地震はいつどこで起こるか分かりません。
災害について正しく知って、正しく恐れ、正しく備えることが防災の第一歩です。わがこと(当事者)意識を持って、日ごろから備えておくことが大切です。この機会に、ご家庭や地域での防災対策の確認をお願いします。



ご利用ください！



防災訓練 (避難所づくり)

まち歩き (防災マップ作り)

避難所運営ゲーム (HUG)

自分でできること

1 家の中は大丈夫ですか？

◆家の倒壊や家具の転倒によって命を落とすことがあります。つっぱり棒などを使い家具を固定する、出入口やベット付近には倒れやすい家具を置かない配置など、家の中を点検しましょう。



2 一時的に避難できる場所を調べていますか？

◆近隣の公園など一時的に安全確保ができる場所を確認しましょう。地区によっては一時集合場所(地区避難所)が定められています。広域避難所は安全を確保してから開設するため、時間がかかる場合があります。

安全確認後、順次お知らせしますので、落ち着いて避難しましょう。



3 安全な避難経路を知っていますか？

◆危険性の少ない安全な経路を考え、実際に安全確保ができる場所や一時集合場所まで歩いてみましょう。
◆電柱やブロック塀、耐震性の低い家屋の倒壊などの危険性がないか、避難経路上の危険物を確認しましょう。



4 生活必需品の備蓄はできていますか？

◆大規模災害時には、電気や水道などのライフラインが長期間止まることもあります。最低3日間は生活ができるよう準備しておきましょう。
◆ローリングストックなどをして、日ごろから少し日持ちする食料などを買っておき、使った分を新たに購入するなど災害へ備えましょう。

防災ハザードマップの9ページを参照



みんなのできること

1 地域での助け合い

◆災害は、自分だけにやってくるものではありません。それぞれ地域に住む人同士が協力し、補い合うこと、互いに情報共有できる体制を確保することが大切です。



2 自主防災組織の役割と活動

◆緊急時の連絡網の作成や防災資機材の整備、防災、消火訓練などの活動が地域防災力の向上につながります。

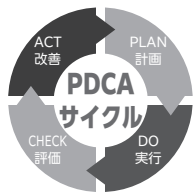
◆災害時には、被災者の救助、応急手当、初期消火、避難誘導、被害状況の把握などによって被害を軽減させることができます。
◆地域の危険個所の情報を地域内に住むもの同士で共有し災害時に備えることが大切です。

3 地区防災計画について

◆地区防災計画とは、地域(区・自治会)の災害リスクを共有し、災害時の備えと行動を地域が主体となって作成する計画です。地域の特性に依りて、必要性の高い取り組みを含めることが重要です。

◆策定方法
○決まりはなく、地域の特性に応じて、内閣府が示す地区防災計画ガイドライン等を参考に作成することでより実効性の高い計画が策定できます。

○避難所運営ゲーム(HUG)、まち歩き(防災マップ作り)、災害図上訓練(DIG)、連絡訓練(広域避難所と地域)等を実施して、計画を作成することもできます。
○策定済みの場合は、現状と合致しているか、過不足はないかなど検討と見直しをお願いします。
○広く皆さんでいろいろな意見を出し合えることから進めることが、いざという時に役立つ計画となります。



※地区防災計画の策定について詳しくは、防災課までご相談ください。